

Title	病院薬剤師の役割の深化
Author(s)	門田, 佳子
Journal	歯科学報, 123(2): 177-177
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10130/6243">http://hdl.handle.net/10130/6243</a>
Right	
Description	

## 特別講演 2

### 病院薬剤師の役割の深化

東京歯科大学市川総合病院臨床薬学科教授 門田 佳子

臨床薬学は、薬物治療を安全で効果的に実施することを目的としており、効果的な薬物治療や副作用対策、患者教育、業務改善など薬剤師業務に関する様々な内容をテーマとしている。そのため、薬剤師の業務も、薬物治療が安全で効果的に実施されるために、医薬品という物と情報の管理を行い、医薬品が適正に使用されることを目的としている。

薬剤師の業務というと調剤や患者への薬の説明、医薬品管理というイメージが強い。新薬情報や医薬品の供給情報、代替品の検討など、これらの業務を行う際にも医薬品適正使用の観点から医薬品情報を吟味し判断を行っている。

病院薬剤師は、医師、看護師を含む多職種の医療チームの中で、情報を共有しながら、副作用のモニタリングや対策など治療の適正化のための提案を行っている。

日本病院薬剤師会では医薬品による有害事象を防止・回避することをプレアボイド (Prevent and avoid the adverse drug reaction) と定義し、医薬品による有害事象の防止・回避のために薬剤師が提案し採用された事例についてプレアボイド報告として集計を行っている。東京歯科大学市川総合病院 (当院) でも毎月約80件のプレアボイド報告があるが、そのうちの50%弱が抗がん薬、抗血栓薬、麻薬などの特に注意を要するハイリスク薬に関する事例であり、医療安全上も貢献していると考えている。当院の薬剤師は全病棟および院内の各種医療チームの一員として入院患者のためにプレアボイド活動を行っているが、外来患者に対しても周術期患者への入院前面談や外来がん薬物療法患者への面談などの活動を行っている。特に外来がん薬物療法担当薬剤師は、患者への面談を行い、副作用情報などを医師、看護師と共有するだけでなく、地域の薬局薬剤師とも連携し、外来治療中の患者の状況も把握するようになってきている。

薬剤師は常に最新の医薬品情報を収集・吟味し、他職種や患者に提供しているが、副作用情報については公表されている情報を利用するだけでなく、院内の副作用発生状況を把握し周知することも行っている。更に、副作用を発見した医療者は国 (PMDA) に報告することとなっていることから、今後、薬剤師はその推進に努める必要もある。

本発表では、プレアボイド事例や外来患者についての情報共有などを中心に最近の病院薬剤師の業務について紹介をしたい。

#### 《プロフィール》



#### ＜略歴＞

1988年3月 明治薬科大学薬学部薬剤学科卒業  
 1988年4月 株式会社キク薬舗 薬剤師  
 1993年4月 ドイツボン大学薬学部3年次編入(1年間)  
 1996年3月 明治薬科大学大学院薬学研究科修士課程  
 (臨床薬学専攻) 修了  
 1997年9月 アメリカイリノイ大学薬学部 PharmD  
 コース研修(1年間)

2001年3月 明治薬科大学大学院薬学研究科博士課程  
 (臨床薬学専攻) 修了  
 2001年4月 恩賜財団済生会横浜市南部病院 薬剤師  
 2004年4月 同 薬剤部情報課 主任  
 2006年4月 同 薬剤部情報課 係長  
 2008年4月 同 薬剤部情報課 課長補佐  
 2009年9月 慶應義塾大学薬学部 医療薬学センター長  
 補佐・専任講師  
 2013年4月 明治薬科大学実務実習(臨床薬学)部門  
 准教授  
 2018年7月 東京歯科大学市川総合病院臨床薬学科教  
 授・薬剤部部长  
 2022年5月 同 副病院長(兼務)  
 現在に至る

#### ＜所属学会＞

日本薬学会、日本医療薬学会、日本臨床薬理学会